

## 【がん化学療法とは】

薬物学分野における「化学療法」は、一般的に抗生物質による治療を指しています。そこで、冒頭に「がん」という用語を付け、さまざまながん化学療法薬（抗悪性腫瘍薬）によるがんの薬物療法を「がん化学療法」と呼んでいます。がん化学療法薬は、抗がん剤、分子標的薬、ホルモン剤などに分類されます。さらに抗がん剤は、薬の作用機序や作用部位により、アルキル化剤、代謝拮抗薬、抗腫瘍性抗菌薬、微小管阻害薬などに分類されています。最近では、分子標的療法をはじめとする薬の開発がめざましく、治療効果のみならず、患者のQOLを考慮した治療法の開発も進んでいます。

## 【がん化学療法における看護師の役割】



多くの場合、がんは長い経過を辿り、多様な治療を必要とします。がん化学療法看護は、がん化学療法の治療期とその後のフォローアップ

期、がん化学療法が治療の選択肢となった時の看護を専門としています。治療期には、抗がん剤などの毒性の強い薬剤を、場合によっては複数使い、さまざまなスケジュールで行います。抗がん剤の投与量・投与期間などの間違いは患者を致命的な状況に至らせることもあります。そのような毒性の強い薬を最終的には人の手で患者に投与する場で責任を担っているのは看護師です。治療に直接関与するという点で、がん化学療法の看護は、がん看護の中でも手術や放射線治療とは異なっています。看護師が、毎回の投与において、確実な投与管理を行い、回避できる障害や苦痛は予防し、投与中の急性症状にも適切に対処することで、最小限の苦痛で最大限の治療効果をあげることができるのです。そのためには、「治療管理」の視点を持ち、治療計画に沿った安全・確実・安楽な投与を行うことが必要です。

がん化学療法は、患者の生命を救い、その後の人生や生活を充実して過ごすための重要な治療です。看護師は、その治療の現場（患者と家族が治療を意思決定するとき、抗がん剤投与の最中、投与後の副作用対策時、治療期の長期経過観察時、治療効果が得られなくなったとき、治療の目標を変更するときなど）に直接的に深くかかわっています。自分の人生を精一杯生きながら、抗がん剤治療を受けているその人を支援することの意味を認識することが求められます。

## 【がん化学療法看護認定看護師とは】

がん化学療法看護認定看護師は、入院、外来を問わず抗悪性腫瘍薬使用した治療をうける患者さんについて、専門的知識と技術をもって直接に看護するとともに看護チームの指導や相談活動にあたり、がん看護の充実をはかる役割をもつ看護師です。

実践（直接ケア）では、心理的ストレスの高い状況にある患者さん及びご家族に対して、治療スケジュール、副作用、生活調整の方法の説明を行い、治療の準備を整え、治療開始後は副作用症状のモニタリング、早期発見、対処方法の指導を行います。特に副作用のアレルギー反応については注意が必要であり、新しく使用される抗悪性腫瘍薬やレジメンに関する副作用情報を現場で活用し、投与中の安全を確保します。また、患者さん、ご家族への説明は医師、薬剤師が行いますが、看護師も繰り返し説明・指導することで患者さん、ご家族の理解を助けます。これらのことを現場の看護師とともに実践し、看護の質を高めます。指導は、看護職に対してがん化学療法看護の知識の普及、技術指導を現場でともに実践しながら行います。相談は、看護職から、がん化学療法看護の相談を受けています。相談内容は新しい治療における看護のポイント、ケアの注意点、副作用のモニタリング方法、指導方法など現場のニーズにより様々です。配属部署で直接ケアするだけでなく、配属部署以外の看護師の相談に対応することで広く看護の質を高めます。

## 【おわりに】

当院には、がん看護領域を専門とする看護師が少ないのが現状です。今後、がん看護を専門とする看護師が増え、医師、薬剤師を含め、医療職がチームをつくり、それぞれの役割を担いながら協働することで、患者さんやそのご家族を支援していくことができると考えています。また、チーム医療を実現していくために、お互いの役割を尊重することに加えて、患者や家族が持つ問題や、自分が感じていることをフランクに話し合える関係性が必要であると考えます。私自身、微力ではありますが、皆さんのお力をかりながら日々活動していきたいと考えています。

## 【 Profile 】

堀 弥生（ほり やよい）

1993年～ 京都市立与謝の海病院勤務

- 日本看護協会神戸研修センター  
がん化学療法看護認定看護師教育課程修了
- がん化学療法看護認定看護師

